



3月の園だより

令和7年3月1日
目黒区立田道保育園園長

2月はすもう月間でした。千秋楽は全クラスが参加し盛り上がりました。3歳児クラスは初めて参加した6月場所の経験から体いっぱい友達にぶつかっていました。自分は強いと自信たっぷり、大舞台でも堂々とすもうをとっていました。4歳児クラスは負けると泣いて悔しがむ姿が見られました。負けて目に涙を浮かべながらも、次の取り組みの友達を応援している姿に本当の強さとは負けた経験から育つものだと感じました。5歳児クラスの取り組みでは指名相手選びに一人ひとりの心の動きがあり、見ごたえ十分な取り組みとなり、2月場所の幕は閉じました。20年以上続いている田道保育園のすもうは体づくりの一環ではありますが、育てているのは体だけではなく心でもあることを強く感じました。千秋楽の当日の連絡ノートには「すもうで勝つためにご飯をたくさん食べました」「〇〇ちゃんには負けない」など子どもたちの様子がたくさん記載されていました。保護者の方々も千秋楽を楽しみにしていることが伝わり、子どもたちの背中を後押して保育園に送り出していることが感じ取れました。子どもたち一人ひとりが力を出し切れたのも、保護者の方々が温かく見守ってくださったことがとても大きいと感じました。

今月はいよいよ卒園式です。卒園を迎える年長児の元気いっぱいの歌声が今年も園内に響き渡る頃となりました。その姿は「1年生になるんだ」と胸を張って誇らしく見えて、皆の憧れの的になっています。卒園式では子どもたちの成長や友達との楽しい園生活の思い出を振り返ります。私たち職員も保護者の方と一緒に、くじら組の旅立ちに大きな拍手とエールを送りたいと思います。

ひなまつり

卒園式

お楽しみ散歩（3、4、5歳児クラス）

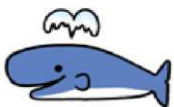
おわかれ散歩（5歳児クラス）

おわかれ会

今月の予定

中旬

避難訓練 身体計測



<一年間の成長した子どもたちの様子>

「大切な友達と一緒に」

5歳児クラス

でんどうランドに向けてそれぞれのグループでどの役割を誰がやるのかを話し合いました。自分の思いを伝えることに一生懸命になり「ここはこうだよ」とつい強い口調で言うことがあったと、それを聞いていた別の友達が「そう言われたら悲しいんじゃない」と声をかけてくれました。友達の優しい声かけを聞き「そうだったね、じゃあどうする」と気持ちを切り替えて話し合いが再開しました。自分の思いや気持ちを相手にどのように伝えるか、それを聞いて相手はどう感じるかということに気付けるようになったことはこの1年の大きな成長だと感じています。また、自分の考えと相手の考えが違った時、どのように折り合いをつけていくのか、どのように解決していくのかを子どもたち同士で話し合うことを繰り返していく中で、相手の気持ちに気づき、助け合い、友達の良いところを見つけ認め合えることにも繋がっているのだと思います。1つの目的に向かっていく姿を見ると友達と心身共に育っていく年長クラスであると頼もしい気持ちになります。



「友達と一緒に」 0歳児クラス

入園した頃は緊張していた子どもたちも、園での生活に慣れて毎日笑顔で入室するようになりました。保育士の「お庭に行こうね」という声を聞き「ないない」と玩具を片付けたり、一緒に行く友達を仕草や声で呼んでいます。頭をぽんぽんと触って“帽子をかぶるよ”と知らせたり、自分でやってみようと上着や靴下等に手を伸ばす姿みられるようになりました。園庭では好きな遊びを楽しんでいます。シャベルとカップ、お皿を使って「もぐもぐおいしいね」のやりとりを保育士と一緒に楽しんでいると、その楽しそうな様子に気づき、そばに来た友達と目を合わせて笑ったり、“どうぞ”とやりとりする姿も出てきました。保育士が楽しく遊ぶ姿から安心して、少しずつ友達のことを気にかけたり、関わる姿が増えてきています。



「たのしいね」 1歳児クラス

一人でじっくり遊んでいた姿から友達とやり取りをして楽しむ姿も出てきました。この1年間で保育士とのやり取りから子ども同士のやり取りへと関わりが広がり、目線や表情、仕草だけでなく、言葉でも伝えようとしています。ある日、牛乳パックでできた積み木の上に座り「お医者さんです。どこが痛いですか」と友達に声をかけていました。「腕が痛いです。机にぶつけちゃいました」と別の子が答えると「そっか、じゃあこれにしますね」と布テープを巻いてくれました。それを見ていた子も「ここ、ここ」と自分の足を指さしています。「ここですね」とその子にも巻いてあげると、互いに顔を見合わせてニッコリ笑っていました。日常で経験したことを再現して、保育士や友達と共有する楽しさを味わっています。



「友達と一緒に楽しい」

2歳児クラス

らっこ組になったばかりの頃は、自分の思いがなかなか言葉にならず、イヤイヤと自己主張していた子どもたち。友達と遊ぶ中で、保育士に自分の気持ちを受け止めてもらい、わかってもらえたという経験を重ねることで今では自分の思いを言葉にできるようになってきました。ままごと遊びでは「クッキー作ろう」と丸いプレートトレーに並べて焼いていると、友達がきて「チョコレートありますか」「ありますよ、これがチョコレート味です」とやり取りが始まります。それを見ていた別の友達も「私も食べたい」と参加してやりとりの輪が広がっていきます。また、ブロックで消防車のはしごが上手につかず「できないよ」と困っている子がいると近くで見ていた友達が「これだよ」と長いパーツを渡してくれたりしています。まだまだ思いのぶつかり合いもありますが、友達と関わるのが楽しい、一緒に遊びたいという思いが溢れています。



「なりきるのが楽しい」 3歳児クラス

この1年間いろいろなごっこ遊びを楽しんできました。「〇〇はお父さんね」「じゃあ〇〇はお姉ちゃんや」と子どもたち同士で役割を決めておうちごっこが始まります。「今日はお休みの日で水族館に行こう」と家族がお弁当を準備しているとバスの運転手さんが「もうすぐ発車しますよ」とアナウンス。一家でバスの乗り込むと「ペンギンランド終点です」と連れて行ってくれます。バスの中で「赤ちゃん熱出たみたい」「病院行く」と話しているのが聞こえると近くでお医者さんが薬の準備を始めています。今までそれぞれだった、ごっこ遊びが繋がって、やり取りもたくさんする姿が出てきました。遊びから友達との関わりも広がり、「明日もやろうね」と次の日も継続していることに大きく成長を感じています。



「友達と過ごす中で」 4歳児クラス

登園するとすぐに「今日お庭行ったら氷鬼しようよ」と約束する声が聞こえます。「〇〇ちゃんと〇〇ちゃんも入ってるよ」と会話が弾み、園庭に出るとすぐに丸くなって鬼決め開始。「僕鬼決めしたい」「私もやりたい」と思いがぶつかりますが「じゃあ先にいいよ。次僕ね」と譲ってくれる姿がありました。日々、友達と一緒に過ごしていく中で、自分の思いを言葉にして伝え、思いがぶつかることもあり、たくさんの葛藤がありました。保育士も間に入って一緒に考えていくことで相手にも思いがあることに気づき、どうしようかと考える姿に成長を感じます。様々な経験の中で一緒に遊ぶことの楽しさをより一層感じ、友達と一緒にならいろいろなことに挑戦する姿もたくさんみられた1年でした。